
破壊を齎す冷酷なる天使と魔法少女たち(予告)

E X A M

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

破壊を齎す冷酷なる天使と魔法少女たち（予告）

【Nコード】

N3241K

【作者名】

EXAM

【あらすじ】

天使は地に墜ちた筈だった

しかし冷酷な天使は空を飛ぶ少女達に出会い運命は変わり始める

あくまでこれは予告のようなものです。

反応を見てから書くかどうかを決めるためのものですのでまだ完成

する予定すらありません。

（前書き）

正直、初投稿なので優しく見てください

それでは始めます

「俺は・・・俺は死なない!!」

少年はスイッチを押し、それに応えるかのように天使は引き金を引く。

天使がもたらした破壊の光によって地上を焼くであろう破壊のかけらは消滅した。

しかし天使も限界だった。

「動け、動いてくれ、ゼロ」

戦いによる傷が天使を宇宙^{そふ}から地上へと落として行く。

薄れ行く意識の中

「・・・すまない、リリーナ」

少年は自分を導いてくれた少女の名を呟き、そして

” 文字通り『天使とともに消滅した』 ”

何も無い空間に天使が漂っている。

まだ少年は意識を戻してはいない。

その時、天使の中にある、本来破壊をもたらすシステム

『ゼロシステム』

が起動した。天使を光が包んで行く。

天使の体は末端から光の粒へとなってゆき、その光が少年の体を優しく包み込んで行く。

何処からか声が響く。

その声は機械的でありながらも暖かさを持っている。

『B J 展開』

再び少年を光が包み込んで行く。

そこには再び何も無い空間が広がっていた。

ティアナ・ランスターとスバル・ナカジマは、先程おかしな魔力の反応があったとされる森のの調査に来ていた。

「おつかしいな。ここら辺の筈なのに……。」

「ねえティア、本当にこの辺なの？」

「魔力反応が小さすぎて細かい位置まで解らなかったんだからしょうがないでしょ」

そう言いつつ、ティアナ・ランスターも若干うんざりとし始めていた。

しかし、そうは言っても終わらなければ帰れないのも事実なのだ。ぶつぶつと言うスバルを黙らせたティアナは反応を頼りに周囲の搜索をしてゆく。

およそ5分後、スバルとティアナはそれを発見した。

二人は言葉を発することができなかった。

二人は見惚れていた。

そこに倒れていたのは一人の少年だった。

年は自分達と同じくらい。

俯せに寝ている。

足まで隠すような長く飾り気の無い白のコートを着ている。

そして、そのコートの背中部分には4枚の”純白の翼”が生えていた。

倒れているだけにも関わらず、その姿には芸術品のような美しさが

あった。

たっぷり1分間は経ったであろう頃、

「・・・・・・・・天・・・・使？」

漸くスバルが小さな声で呟いた。

プロローグはここまでです

- - - - -

「ティア！！大変だよ、この人天使だよ！！！！」

「・・・・・・・・これは・・・・バリアジャケット？」

- - - - -

「ゼロ・・・・なのか？」

生きることには希望を見出だした少年は再び空へ。

- - - - -

「目標を殲滅、任務完了」「ガジェットをAMFごと一掃するなんて・・・、なんて出鱈目な破壊力」

冷酷なる天使の復活

- - - - -

「ランスター、お前は『兵士』になってはいけない。

このままいけば、お前の行き着く先は・・・俺だ。」

目標に踊らされる者との会話

- - - - -

ヒロはツインバスターライフルを構えながら、語り聞かせるように話しはじめた。

「なのは、お前はランスターを俺と同じ『兵士』にしようとしている。」

「そんなこと・・・。」

「俺は戦うことしか出来ない。」

だが、お前達は違う。

俺と同じになる前に止められる筈だ」

「同じ？それは一体どういうこと？」

「あの少女を『殺した』日から、

俺は多くの人を『破壊』してきた。

この世界でも俺は戦っている。

なのは、教えてくれ。

俺はあと何人殺せばいい？

俺はあと何回、あの娘と小犬を殺せば戦いから解放されるんだ・・・

「

そう言いながら、ヒイロはバリアジャケットを解除した。

ヒイロの身体は重力に従い墜ちて行く。

少女は未だ知らない少年の過去に興味を抱く

- - - - -

「お兄ちゃん、このお花あげる。」

フェイトママとみんなにあげてるんだよ」

花を握り締める少年

「ヴィヴィオとお花を摘んでたらいっぱいになっちゃって、

．．．．．もしかしてお花嫌いだった？」

「いや、なんでもない」

重なる少女の面影

蘇る心的外傷^{トラウマ}

- - - - -

『これよりあなたたちにはマスターの過去の一部をお見せします

このことは私の独断となります

しかしあなたたちにはこのことを知る権利があると私は思っています』

『ゼロシステム起動

脳神経との接続異常なし

ヒロロユイの記憶を読み込み開始

対象の脳への直接投影開始』

心を閉ざした少年の真実

- - - - -

少年により歴史の歯車は歪みながらも^{くるくる}回^るり出す・・・

- - - - -

「任務了解、これより自爆する。」

T o b e c o n t i n u e . . . ?

（後書き）

こんな下手な作品を後書きまで読んでくださるなんて・・・

もし好評なら連載になるかもしれません・・・

期待しないで待っていてください

簡単にゼロのステータスを書いておきます

待機状態：自爆スイッチ

BJ：白いロングコート＋4枚の翼（DVDボックスだったかのあれを想像してください）

装備：ビームサーベル、ツインバスターライフル、自爆装置（体内の魔力を生存に必要なものも含め全て破壊に使う）、盾（翼）

その他：ゼロシステム（原作通り使用者への未来予測の投影）、ゼロフレーム（BJの90%が破壊されても機能停止しない）

追記：ツインバスターライフルはフル出力で撃つと3発が限界です（生命維持的にも）、マシンキャノンは外しました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3241k/>

破壊を齎す冷酷なる天使と魔法少女たち(予告)

2010年10月17日02時43分発行